

那須の水害を想定し、 合同情報伝達訓練を 実施



平成26年5月29日(木)、栃木県庁県土防災センターにおいて、栃木県（県土整備部・県民生活部・県警）・国土交通省関東地方整備局（宇都宮国道事務所・日光砂防事務所）・防衛省（陸上自衛隊第12特科隊・自衛隊栃木地方協力本部）・一般社団法人栃木県建設業協会の5機関による合同情報伝達訓練が実施されました。

訓練は、大規模災害発生時に公共土木施設の復旧について関係各機関が連携し迅速な対応を図ることを目的として、本年度は平成10年の「那須水害」を想定し、水防情報伝達訓練、土砂災害情報伝達訓練、橋梁流出に伴う道路交通確保の訓練の3項目について訓練が実施されました。訓練の参加者は約50名でしたが、本協会からは正副会長をはじめ那須支部が訓練に参加しました。

吉田県土整備部長から渡邊会長へ「活発な前線の影響で、本日未明、宇都宮地方气象台から那須地域に大雨・洪水警報が発令されました。これから断続的に激しい雨が予想されますので、『災害時の応急対策業務の実施に関する協定』に基づき、調査パトロールを要請いたします」との電話連絡により訓練は開始されました。

水防情報伝達訓練は、一級河川余笹川、稲沢陸橋水位観測所の水位が氾濫注意水位を超えたとの想定により、現地から「道路河川等管理情報システム」に報告された情報を大田原土木事務所、県土整備部河川課が確認しながら行われました。

土砂災害情報伝達訓練では、那須町役場から、土砂災害警戒区域「成沢地区」において土砂災害の前兆現象の通報があったとの想定により、県土整備部砂防資源課、大田原土木事務所、建設業協会那須支部（災害対策現地情報連絡員）

とで「道路河川等管理情報システム」により情報がやり取りされ、災害現場において那須支部がブルーシートによる浸食防止措置を実施する訓練が行われました。

橋梁流出等に伴う道路交通確保の訓練については、県道大田原芦野線をパトロール中の那須支部会員が、寺子橋が流失したことを「道路河川等管理情報システム」で報告し、これを大田原土木事務所が確認し、自衛隊第12特科隊の宇都宮駐屯地にある仮橋を架設する訓練が実施されました。

なお、訓練には、秋田県、新潟県、長野県、山梨県、茨城県の協会関係者が視察に訪れ、熱心に訓練状況を見学しました。



栃木県庁での那須の水害を想定した合同情報伝達訓練実施の様子

